近代鹿児島における在地窯業の考古学的研究

渡辺芳郎(人文学科多元地域文化コース)

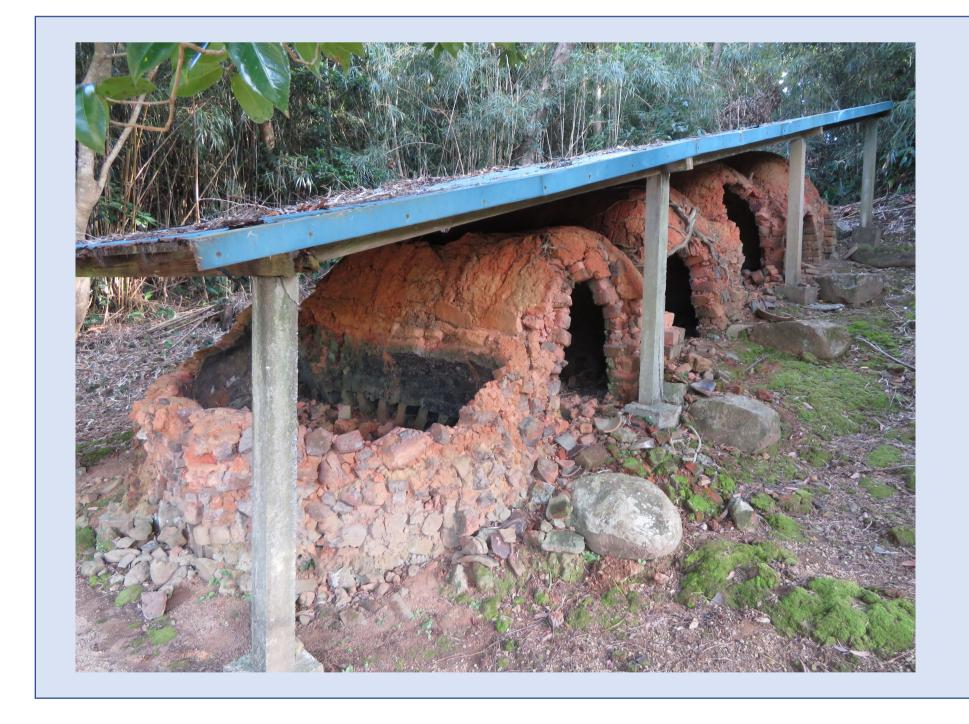
プロジェクトの目的:大学の研究成果と地域の歴史文化財の保全・利活用との連携

大学の研究成果と地域の歴史文化財の保全・利活用との連携 地域の歴史文化財の保全と利活用 近代薩摩焼の研究 究の 輸出用金襴手製品の研究が中心 基礎情報の収集・整理・発信の必要性 課題 自治体のマンパワー不足による困難な現状 それ以外の新興窯場の研究の必要性 歴史文化財の保全・利活用のための地域貢献 指宿市山川鰻窯跡(明治末頃に操業) 内容 鹿児島大学による発掘調査(2015~21年) 地元住民の理解・法的保護のための学術情報 調査成果の発信 調査成果の整理と報告書の作成

プロジェクトの内容:2015~2021年に、指宿市教育委員会の協力を得て実施した人文学科考古学ゼミによる発掘調査の報告書作成を進めるとともに、鰻窯とほぼ同時代に開窯した野間焼窯跡の調査を実施し、両者を比較することで、近代鹿児島における窯業生産の実態を明らかにする。

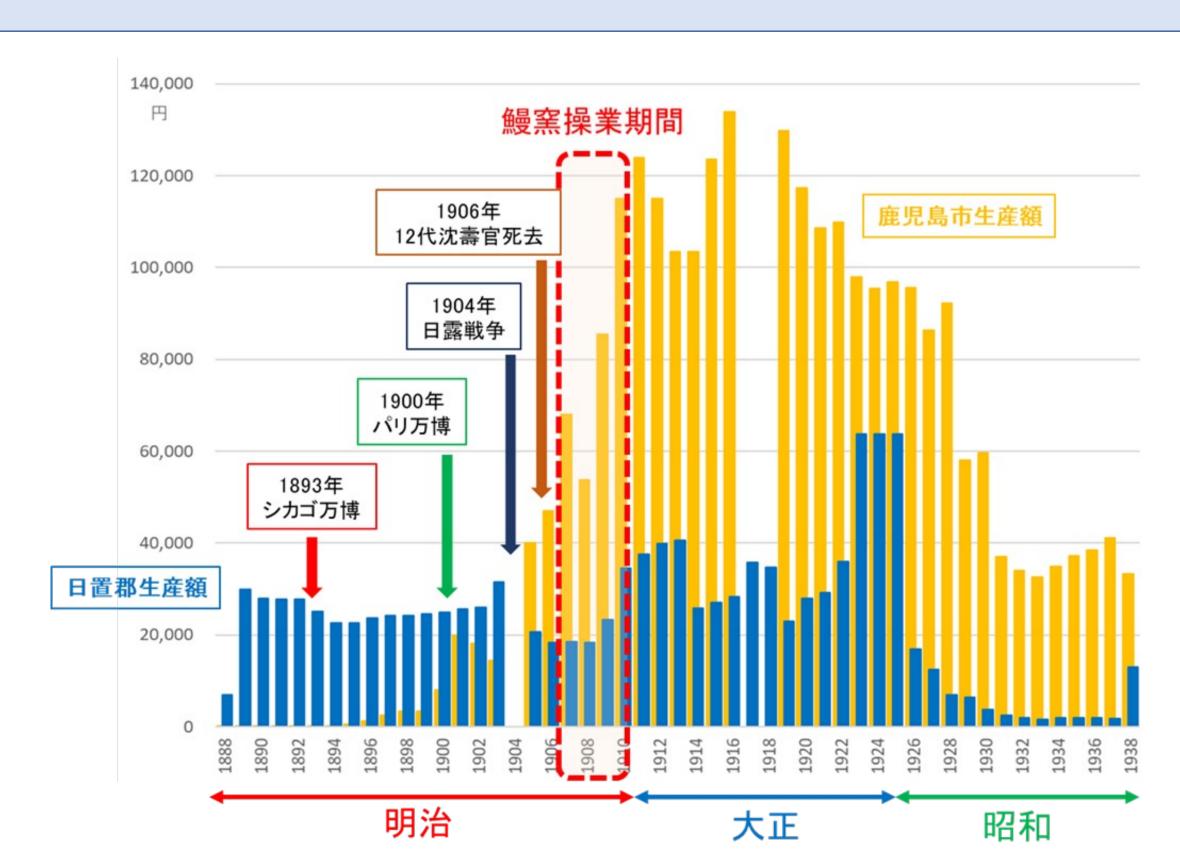
鰻窯跡:指宿市山川鰻に所在する窯跡で、燃焼室+3焼成室よりなる連房式登窯である(全長6.63m)。明治末年に苗代川(日置市美山)から移住した「伊集院どん」夫婦が操業したと伝えられ、発掘調査の結果、窯構造・遺物からも支持された。





野間焼窯跡:種子島中種子町に所在する窯跡で、燃焼室+4焼成室よりなる連房式登窯である(全長8.6m)。明治40年頃に苗代川の中馬友吉父子が開窯した。窯構造や周辺に散布する遺物から、鰻窯跡との共通性が認められる。

明治時代末の苗代川の状況:苗代川の陶磁器生産額は、鹿児島市内のそれに凌駕され、相対的に減少する。また求心力を持っていた沈壽官が死去する(明治39年)。この低迷を背景に、鰻窯も野間焼も「新天地」を求めて開窯された窯と推測される。



鹿児島市と日置郡(苗代川)の陶磁器生産額の推移(1888-1938年)